

令和4年度

学校自己評価表（報告）

学校運営計画		
学校運営方針	<p>豊かな人間性と創造力を身に付け、主体的に学び、国際的な視野をもつ社会や地域のリーダーを目指す生徒を育成する。</p> <p>そのために、明るく、たくましい進学校として、次に掲げる資質を育む。</p> <p>(1) 自立して生きるための基礎となる学力 (2) 他者と協力して生きるための豊かな心 (3) 自己実現のために必要な気力及び体力</p>	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標〈つきたい力〉
<p>○ 地域探究学習「かしわざき学」の取組においては、コロナ禍で市内事業所等への訪問が制限される中、後期生の主導で工夫した地域に出たの探究活動ができた。また、地域の講師を招き、かしわざき発イノベーションの取組と発表を行い、本校独自で特徴的な探究学習を実践することができた。</p> <p>○ 新型コロナウイルス感染症対策として臨時休業となった期間や濃厚接触者の特定による出席停止等となる生徒もいたが、工夫した授業展開とタブレットの活用による授業配信などを各教科で実践し、生徒の学習を補償することができた。進路指導においても、6年生に対する個別指導や面談を充実させ、東京大学受験に挑戦する生徒を輩出することができた。実績としては東北大学2名、筑波大学4名の合格者を含む、国公立大学合格者数が20名であった。</p> <p>○ いじめ事案への組織的対応、未然防止、見逃しゼロに向け毎週の運営委員会、いじめ不登校対策委員会で生徒の情報共有を行い、チームで対応する体制が整った。 生徒会風紀委員を中心とした、いじめ防止全校集会を実施し、啓発活動にも取り組んだ。保護者と連携したいじめ未然防止活動の取組が課題である。</p> <p>○ 部活動等においては、新型コロナウイルス感染症対策のために活動日が制限されたり中止となる大会等があったりしたものの、生徒はひたむきに練習に取り組んだ。8月に行われた全国中学校水泳大会では、3年生の生徒とリレーチームが優勝した。</p>	<p>学力の伸長及びキャリア教育の充実 (中高一貫教育を活かし、優れた専門性の基礎づくり)</p>	<p>学ぶ目的や働く意義の理解を通し、自分の将来に目標をもち、主体的に学ぶ力を育成する。</p> <p>〈キャリアプランニング能力〉</p>
	<p>全員の希望進路の実現に向けた確かな学力の定着</p>	<p>自分の希望進路の実現を見据え、課題を見つけ、分析し、計画を立てて解決する力を育成する。</p> <p>〈課題対応能力〉</p>
	<p>公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実 (高い倫理性の基礎づくり)</p>	<p>自分の役割を理解し、他者と協力して、積極的によりよい集団や社会を形成しようとする力を育成する。</p> <p>〈人間関係形成・社会形成能力〉</p>
	<p>心身鍛錬及び健康管理の充実（自己実現に必要な気力・体力づくり）</p>	<p>自分の個性や特徴を理解し、向上心をもって主体的に行動する力や、自分の考えや感情を律し、あきらめずに努力する力を育成する。</p> <p>〈自己理解・自己管理能力〉</p>
	<p>故郷への愛着・共生、気づき・かかわる力の向上 (共に生きる社会参画への基礎づくり、自己肯定感の向上)</p>	<p>「かしわざき学」などの地域との交流や校外活動を通して、社会や母校に貢献しようとする意欲を高める。</p> <p>〈地域連携・社会貢献〉</p>

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
1 学力の伸長及びキャリア教育の充実	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間を見通して、「総合的な学習（探究）の時間」において系統的な指導を行う。 ・より良い年間行事計画を提案する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の「総合的な学習（探究）の時間」の計画において、生徒の将来像を意識した行事、活動計画を立案する。 ・式典等の実施計画や実施後の総括をもとに、改善や見直しを行う。 	A
	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会行事に主体的に参加することを通して、社会に関わろうとする意識を育て、将来の目標を見定められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭、球技大会など各種行事において、委員会、係の仕事に責任持って行うことで、全体のために働くことを学ばせる。 	A
	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間を見通した進路指導計画のもと、進路学習や進路講演会などを実施し、生徒が将来のビジョンを持てるようにする。 ・学習習慣を定着させ、学力の伸長を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア形成に関する講演などを発達段階に応じて計画的に行う。 また、年間指導計画を随時見直して、より効果的な進路指導計画を作成する。 ・家庭学習時間の調査を行い、学年部と連携して、学習時間の少ない生徒の指導などを行う。 	B
	1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・望ましい職業観、勤労観を育成し、自己の生き方を創造する力を育成する。 ・基本的な生活習慣の確立と学習習慣の確立 ・主体的に学ぶ力・かかわり合って学び合う力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な働く人調べなど家庭と連携した学習を行う。 ・「地域調べ」「大学見学」「職場見学」など地域に根ざした体験活動を実施する。 ・自分の生活の管理と規則正しい生活についての指導を継続して行う。（生活ノート、休日指導） ・学習会を活用し、学び方、学び合い学習を実施する。 ・かかわり合い学習を積極的に取り入れる。 	B
	2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生き方とかかわらせながら学ぶ意味を見出し、主体的に学ぼうとする態度の育成。 ・日常の家庭学習の習慣を身に付け、学力の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを通して、生徒が自己の生き方を考えられるような活動を仕組む。 ・自己の生活を管理し、規則正しい生活の在り方を考えさせる。 ・主体的に学ぶ力・かかわり合って学び合う場を設定する。 ・望ましい職業観、勤労観について考えを深める活動と振り返りを行う。 	B
	3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・SAT に向けて基本的な生活習慣、学習習慣の確立を図る。 ・学ぶことや働くことの意義を考え、自己の興味・関心と結びつけ、明確な将来像を描かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学習時間調査などの各種調査」を活用して、生活・学習状況をチェックする。 ・「大学調べ」を実施し、進路実現に向けての意識付けを行う。 ・「立志式」をきっかけに、自分を見つめ、現段階での将来像や夢を具体的に考えさせる。 	B
	4 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣・学習習慣の確立 ・生き方講演会（進路講演会）を有機的に行い自己の将来について具体的に考えを創造する。 ・自己理解を深めて専門性の伸長を図るための学びを主体的に体得する力が付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活記録表兼体温記録表」をチェックし、生徒に家庭学習の習慣を定着させる。 ・課題の意味と成果（学力の定着）を理解させ、主体的、計画的に取り組むように指導する。 ・課題提出率が90%以上になるようにする。 ・講演会は生徒の意識を啓発する内容となるように計画し、実施する。講演会実施後に教員が内容等について評価する。 	B
	5 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣・学習習慣を確立させる。 ・オープンキャンパスの参加を通し、職業観の育成や、卒業後の進路目標の明確化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別面談などを通し、生活習慣・学習習慣が確立しているか、注意する。 ・オープンキャンパスに参加する前に大学調べなどを行い、大学に関する知識を今まで以上に増やす。 	B
	6 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアに関する意識を高める。 ・家庭学習時間の目標達成率50%以上。 ・課題提出率90%以上。 ・進路を明確にさせ、志望校・志望分野を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい勤労意識を持たせるため、学年だよりなどで情報提供を行う。 ・課題をこまめにチェックし、未提出の者に提出を呼びかける。 ・面談を通じ、学習時間の不足している生徒には、アドバイスをし、より充実した学習が行えるよう励ます。 	B
	国語科	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの合格率が80%以上となる。 ・課題の提出率が90%以上となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストでは、漢字・古文単語・漢文句形を中心に基礎学力の定着を目指す。 ・再テスト等を実施し、全生徒の基礎学力の定着を目指す。 ・演習問題を中心とした課題を提示し、読解力をつけさせる。 	B
	社会科	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人ひとりの授業への関心・意欲を高め、学ぶ目的を認識させ、主体的に学べるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「指示・発問の明確化」に努め生徒の理解や関心を高めるようにする。 ・生徒の理解が捗るように配色・ノートを意識した板書を行う。 	B
	数学科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内テストの合格率が80%となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内テストでは事後指導を行い、確かな学力の定着を図る。 	B
	理科	<p>【前期課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を向上させるような授業展開を行い、理科に興味・関心をもつ生徒を増やす。 <p>【前・後期課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲を向上させるような授業展開を行い、理解しやすい、分かりやすい授業を心がける。 	<p>【前期課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察などの直接体験を取り入れた授業を展開し、思考力、推察力を高め、意欲向上に繋げる。 <p>【前・後期課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の授業をそれぞれ見学し、教科内での研修を行う。 ・配色への気配りやノート作成を意識した板書を行う。 ・実物やモデルなどの教具、ICT機器を活用する。 	B
	英語科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を大切にし、楽しくかつ充実した内容になるように計画する。 ・英語検定の合格率が50パーセント以上になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内テストや各種課題を、生徒の実態に合わせて作成する。 ・日常的に授業を公開し、質の高い授業が展開されるように心がける。 	A
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康や体力に関心を持ち、その増進や向上を目指して意欲的に学ぶ態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの結果をもとに、各自の課題を把握させる。 ・学習内容が、健康の増進や体力の向上にどのように関連しているかを説明しながら授業を進める。 	B	

B

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
2 全員の希望進路の実現に向けた確かな学力の定着	教務部	<ul style="list-style-type: none"> より良い年間行事計画を提案する。 学習計画や学習状況を見直せるようにし、学習の習慣化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 年間行事計画の作成時に、各分掌の行事・部活動の大会等を考慮し、考査間隔を平均化できるよう提案する。 各考査の最終日に学活・LHRを入れ、振り返りができるようにする。 	A
	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 進路実現のため生徒に課題を見つけさせた上で、適切な助言を与える教育相談を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の教育相談アンケートを実施し、それに基づいた教育相談を行い、学校生活の充実と進路実現のために適切な支援を行う。 	A
	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査を実施し、調査結果を基に適切な進路指導を行う。 模擬試験を実施し、生徒の学力向上に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路希望調査や模試の結果などを参考にし、生徒と個別面談の資料にしよう。 模擬試験の結果をふまえて弱点の補強を行うよう各教科に働きかける。 	A
	1 学年	<ul style="list-style-type: none"> 日々の学習計画を立てさせ、計画的に家庭学習を行わせ、課題提出率 100%を目指す。 定期考査に向けて学習計画を立て、計画的に学習を進めさせ目標の達成を図る。 定期考査の復習にしっかりと取り組ませ、既習内容を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 短学活で時間の使い方や目標を具体的に指導する。 毎日の家庭学習の計画をその日の終学活や学習会で行う。(助言を行う) 定期考査前の学習計画と考査後の復習についての指導を十分に行うとともに、点検もしっかりと行う。 	A
	2 学年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来を見据えながら未来を切り拓こうとする生徒の意欲を喚起する。 具体的な自分の進路希望を実現するため、各種考査で安定した結果を収めさせる。 学力の定着を図るための家庭学習の習慣化。(平日 2 時間、休日 3 時間) 	<ul style="list-style-type: none"> 考査 2 週間前から家庭学習計画表を配付し、計画的に学習できるようにする。学びの意味を考える指導を継続する。 課題提出率 100% を目指し、家庭学習を定着させる。 課題提出の滞っている生徒には、必要に応じて課題解消会を行い、未提出課題をなくさせる。 	B
	3 学年	<ul style="list-style-type: none"> 各教科の課題の提出が目的にならず、学力の定着の手段として取り組むことができるように働きかける。 SAC、SAT を通して、前期課程の学習内容を確実に定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じ、課題解消のための放課後学習会を随時行う。 学年だよりを定期的に発行して学校の情報を家庭に提供するとともに面談・PTA 活動等を計画的に行う。 	B
	4 学年	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解における適性や願いを明確にして、希望をもって未来に向かう力を付ける。 進路学習の充実や文理選択の決定を通じて生徒の進路意識を明確して、志望校決定に結びつける。 	<ul style="list-style-type: none"> LHR などでも文理選択、進路について考える機会を設ける。 生徒の適性も踏まえた上で個人面談を定期的実施する。 「進研模試」の国数英総合で偏差値 58 以上が 25%以上、偏差値 50 が 40%以上になることを目指し、生徒の力に応じた事前・事後の指導を行う。 	B
	5 学年	<ul style="list-style-type: none"> 計画的に学習を行うよう指導する。また、授業を大切にすることを意識を持たせ、集中して授業を受けるようにする。 平日 4 時間以上、休日 5 時間以上の家庭学習を習慣化させる。 進路講演会など、進路意識を啓発する講演会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 担任と副任が連携して個別面談を行うなどして、希望の進路につながるよう教育相談を実施する。 予習・復習が効果的になされるよう課題を課す。 進路講演会で、生徒に有用な情報を提供するとともに、進路に対しての意識を啓発する内容になるように計画する。 	C
	6 学年	<ul style="list-style-type: none"> 大学入学共通テストにおける国公立大学型受験率 60%以上。 国公立大学進学率 40%以上。 難関大学進学率 5%以上。 進路講演会を保護者、生徒を対象に開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の授業内容の理解が増すように各教科で授業改善をしていく。 安易に志望を下げる、私立大学受験にシフトすることがないよう面談を通じ、指導していく。 補習や個人指導を充実させ、難関大学を志望する生徒の希望をかかなえる。 	C
	国語科	<ul style="list-style-type: none"> NRT において、学年の平均偏差値が 5.5 以上になる。【前期課程】 進研模試において、学年の平均偏差値が 5.5 以上になる。【後期課程】 	<ul style="list-style-type: none"> 学力推移調査や模擬試験後に、各授業で復習を行う。 日々の授業において予習・復習を促す。 読書習慣をつけさせる。 	B
	社会科	<ul style="list-style-type: none"> 【前期課程】 3 年生の 30% が SAT 本試験で達成、再試験後に、合計 70% の生徒が達成する。 【後期課程】 5 年進研模試で偏差値 53 以上の生徒が 50%以上 大学共通テストで 7 割以上得点した生徒が 50%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 各テスト後の「振り返り」を確実に行わせ、理解できていない事項の定着をはかる。 学年に応じた進路指導を行い、進路指導部と連携してさまざまな情報を共有し、生徒に提供する。 	D
	数学科	<ul style="list-style-type: none"> 外部模擬試験において、以下の数値を達成する生徒が 50%以上となる。 [学推全国偏差値 1 年生 46, 2 年生 48, 3 年生 50 以上] [進研模試全国偏差値 4 年生 56, 5 年生 55, 6 年生 54 以上] 	<ul style="list-style-type: none"> 考査や模擬試験では、計画的な学習を促し、考査・試験後には振り返りを行う。 	C
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習定着の状況をきめ細かく把握する。 基礎基本の定着を目指す反復学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返り学習や再テストを実施し、躓きの早期発見を行う。 成績不振者には補習や基礎の反復学習を行う。 	B

英語科	<ul style="list-style-type: none"> ・N R T平均点偏差値(全国)が 60 以上になる。【前期課程】 ・進研模試において、平均点偏差値(全国)が 54 以上になる。【後期課程】 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種試験の事前指導、事後指導を行う。 ・Can-do リストを活かし、将来の望ましい姿を見据えた指導計画を立案し、実行する。 ・進路指導部と連携し、各種情報を最大限利用し、生徒に適切な指導を行う。 	B
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の立てた目標を達成するために工夫して活動し、技能や体力を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・練習内容や用具・場の工夫など、いくつかの練習方法を取り入れながら授業を進める。 ・単元によっては、自由練習の時間を設定し、個人やグループの課題に応じた練習を工夫させる。 	B

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
3 公共心・規範意識の育成及び人権教育の充実	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ・L F E活動を通して、他学年の生徒とも自分から関わろうとする気持ちを育む。 ・後期課程に道徳授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・L F E活動において、親睦レクリエーションを実施し、親睦を深める。 ・L F E活動において、生徒同士が関わる活動を充実させる。 ・道徳の指導計画において、授業の質的向上を図るための手立てを記載する。 	A
	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく元気で爽やかな挨拶が自然に交わされる学校づくりを目指す。 ・小さなトラブルでもいじめに発展しないよう、常に情報収集と共有に努め、組織的に早期の問題解決を図る。 ・登校しにくくなっている生徒の情報を定期的に共有し、欠席しがちな生徒に適切な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に自然な挨拶ができるよう、風紀委員会が中心になって「挨拶運動」を年3回行う。 ・学年、分掌など各部会で定期的に情報交換する。 ・いじめ・不登校対策委員会を中心とした支援体制を機能させる。各部と連携を取りながら個別支援計画を作成し、支援に当たる。 	A
	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> ・未来に夢や希望をもち、自らの人生や新しい社会を切り拓く力を身につけ、自主的に考え行動する資質・能力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間として自らの人生をどう生きるかを一人一人に考えさせる学習を、進路学習全体を通じて適切に行う。 	B
	1 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から、誰にでも元気にあいさつができる。 ・相手の立場に立って考えることができる生徒、感謝の気持ちを持てる生徒を育成し、いじめや不登校のない集団づくりを行う。 ・集団の一員として各自の役割や仕事をしっかりと果たす姿勢や、仲間と積極的にかかわり合い協力して諸活動に取り組める態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いつでも」「どこでも」「誰にでも」「自分から」あいさつできる風土を醸成するための声かけ・指導を行う。 ・「週の振り返り」で月末にはいじめに関するアンケートを含み、学年部、教科担当に回覧して情報を共有し、複数の目で生徒を見とり、教育相談を適宜行う。 ・普段から生徒の見とりを十分に行い、生徒の表情の変化、人間関係の変化を見逃さないようにする。 ・家庭との連携をとるため、欠席時の家庭連絡を適宜行う。 ・学年委員会など、学年・学級の組織を動かし、自治的な活動を推進する。 	A
	2 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・他人の心の痛みがわかる生徒、感謝の気持ちを持てる生徒を育成し、いじめや不登校のない集団づくりを行う。 ・集団の一員として各自の役割や仕事に責任を持って取り組む姿勢や、仲間と協力し合い自主的・主体的にかかわる態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団に貢献することの大切さを指導する。 ・仲間や集団の良い点を生徒に紹介することで、目指す姿を気付かせ、称賛の気持ちを拍手で表現させる。 ・週の振り返りを通して自己の内省をさせるとともに、望ましい集団のあり方について考えさせる。 	A
	3 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性をもって、思いやりや感謝の気持ちで他に接し、共働する生徒を育成し、いじめや不登校のない集団づくりを行う。 ・集団の一員として各自の役割や仕事に責任をもって取り組む姿勢や、仲間と協力し合い自主的・主体的にかかわる態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活アンケート」等を活用しながら教育相談を実施する。 ・週の振り返りを定期的実施し、学年部で情報を共有する。 ・明るく元気なあいさつや返事、教室内の整理整頓、清掃活動を充実させ、生徒の公共心を培う。 	A
	4 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめや不登校のない学級・学年。 ・教室内の整理整頓・清掃活動の充実や生徒会活動・係活動を生かして公共心を培う。 ・多様性に対する理解に基づき、広い視野と寛容性をもってかかわることのできる基礎を培う。 ・あいさつの励行と規則の遵守を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適宜教育相談を実施する ・前期課程からの指導を継続させ、より深く自己の生き方として指導を継続する。 ・生徒への指導や教員の見取り等で、いじめを防止する。必要に応じて「生徒アンケート」を実施する。 ・清掃や係活動を徹底し、教室内の美化に努めさせる。 ・L H RやS H Rの時間、道徳の授業を実施し、多面的多角的に考えを深め、協働的な活動とおして主体性をもって社会における公共心、規範規則の醸成を図る。 	A
	5 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の充実を図り、いじめ及び不登校のない学年づくり、集団づくりに努める。 ・教室内の整理整頓をし、きちんとした清掃活動を通じ、生徒の公共心を養うよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常日頃から生徒の様子に目を配るとともに、教育相談やいじめに関する生徒アンケートの結果も参考にして、面談等を行い、いじめを防止する。 ・清掃を徹底すると共に、清掃時間以外でも教室内の美化に努める。 	A
	6 学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の充実を図り、いじめや不登校のない学年・学級づくりや集団づくりを行う。 ・挨拶や清掃をきちんと行うよう、日頃から細かく指導する。 ・人権教育を通じ、人権意識を高める。 ・行事に積極的に参加し、クラス意識、学年意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果を詳細に分析し、早めに面談を行う。 ・行事への積極的参加を促す。 ・新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、感染による 差別をすることのないよう人権意識を高める。 	A

国語科	・現代文、古文、漢文の各教材を通して、公共心と規範意識の向上を目指す。	・意見発表やグループ討議など、生徒が自ら考えて活動する時間を設定し、生徒が様々な価値観を踏まえて考えを深められるよう支援する。	B
社会科	・授業をとおし、公共心の育成を図るとともに、人権尊重の意識を高める。	・授業で、公共心について考えさせるとともに、人権問題にも触れ、現代社会についての考察を深めるとともに、社会の構成員として、自己のあるべき姿について考えさせる。	A
数学科	・他者と協力して問題を解決しようとする態度を育てる。	・グループで問題解決への様々な過程を考えさせ、それらをクラスで共有する。	A
理科	・授業の開始終了時刻を厳守する。	・チャイム前に教室で待機し、生徒に行動を促す。 ・授業計画をしっかりと立て、見直しをもって授業を行う。	B
英語科	・生徒が、お互いを尊重しながらペアワークやグループワークができるよう指導する。	・授業中のペアワークやグループワークなどで、生徒同士が協力し合いながら活動する場面を取り入れる。	A
保健体育科	・グループでの役割を果たしたり教え合い学習をしたりするなど、仲間と協力して活動する態度を育てる。	・グループ活動を取り入れ、協力し合う場を設定する。 ・仲間と協力しなければ成り立たない活動を取り入れる。	A

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価	
4 心身鍛錬及び健康管理の充実	教務部	・チャレンジウォークで、生徒に達成感を持たせる。 ・チャレンジウォークを円滑に運営し、生徒の完歩率を向上させる。	・チャレンジウォークのコースについて、検討し、適切なコースづくりを行う。 ・事前準備やスタッフの打合せを綿密に行い、当日の業務に支障がないようにする。 ・生徒への事前指導を充実させる。	A
	生徒指導部	・自己実現に向け、生活習慣の見直しを図り、生活リズムの確立と共に健康管理能力を始めた自己管理能力を高める。	・学級担任は、生活記録等を活用し、自分に合った生活リズムが作れるよう指導する。 ・生活習慣の重要性を学ばせるために、発達段階に応じた保健講座を実施する。 ・新型コロナウイルス感染防止のために、検温やマスクの着用、手洗いなどを励行する。	A
	1 学年	・体力の向上の大切さと意義を理解させ、部活動などに積極的に参加させる。 ・自己の生活を見直す機会として保健講座を設け、健康的な生活に向けて自己管理できるようにする。 ・チャレンジ・ウォークの全員参加・完歩を目指す。	・部活動の意義と、具体的な活動と成果について複数回の指導を行う。 ・「保健」の授業と関連した内容で、養護教諭がかかわる授業（講座）を設定する。 ・チャレンジウォークにおいて、各自・学級での目標設定し、協力して目標を達成できるような働きかけを行う。 ・スキー、マリンスポーツの地域スポーツを実施する。	A
	2 学年	・自分の心身の健康管理を確実にし、欠席や遅刻、早退をしないようにさせる。 ・集団の一員としての自覚と役割を理解させ、自他の違いを尊重する態度を育成する。	・保健講座を通して、自己管理への啓発を行う。 ・欠席や遅刻、早退の多い生徒に対して教育相談を行うとともに、その保護者と連携して改善を図る。 ・チャレンジウォークで、全員完歩を目指す。	A
	3 学年	・自分の生活を定期的に振り返り、食事や余暇の過ごし方と自分の体力を照らし合わせて、常に主体的に修正できる力を付ける。	・チャレンジウォークで「全員一斉の完歩とゴール」を目指す。そのための意識を高める。 ・食育、運動などの直接振り返る機会を定期的に設ける。	A
	4 学年	・知・徳・体のバランスのとれた生徒を育成する。 ・たくましい心身、あきらめない心をもって自己の健康管理を習慣化する。	・「生活記録表兼体温記録表」をチェックし、生徒に健康管理への意識付けと習慣化を促す。 ・部活動に所属している生徒は継続するように促し、HR等で生徒を励ます。 ・食べること、寝ること、排泄することなど健康について適宜指導し、自他の生命を尊重する態度を育てる。 ・場面を捉えて励まし、指導を継続する。	B
	5 学年	・知、徳、体のバランスのとれた生徒に成長するよう、指導する。	・欠席、遅刻、早退等が少なくなるように気を配る。欠席がちな生徒には教育相談を実施するなどして対応する。 ・部活動に加入している生徒には、文武両道を果たせるように声かけをし、奨励していく。	A
	6 学年	・欠席・遅刻・早退等がない学年・学級づくりを行う。	・気になる生徒への対応（質問や面談）を速やかに行う。 ・定期的に面談を行い、生徒の精神面のサポートを行う。	A
	国語科	・様々な教材を通して多様な考えや価値観に触れさせ、人間を理解する。	・現代文分野、古典分野の教材を通して「人間とは何か」を考えさせ、自己や他人を理解する力を身につけさせる。	B
	社会科	・課題を欠かさず提出させる。	・原則として毎週各学年ともに課題を課し、毎週期日を守り提出することを徹底させ、自己管理能力や規律性を身につけさせる。	B
	数学科	・課題の提出率が90%以上となる自主課題を設定させる。	・考査の振り返りを行い、自己分析から弱点を知り、自らの課題を考えさせる。	B
	理科	・座学と実験のメリハリをつけ、場面に応じた振る舞いができるようにさせる。	・生徒への指示や発問は、生徒の活動を止め、板書などの視聴覚情報を用いて簡潔に行い、メリハリのある授業を展開する。	B
	英語科	・家庭学習の習慣を身につけさせ、自ら進んで学習に取り組むよう指導する。	・Challenge Now!を活用して、家庭学習に取り組みさせる。	C
	保健体育科	・継続した運動の効果を理解し、毎時間のウォーミングアップで定められた距離を走り通す態度を育てる。	・ウォーミングアップの重要性や、継続することの効果を繰り返し指導する。 ・しっかりと走っている生徒を称賛したり、そうでない生徒を激励したりと、声掛けをする。	B

重点目標	具体的目標		具体的方策	評価
5 故郷への愛着・共生、 気づき・かかわる力の向上	教務部	<ul style="list-style-type: none"> 「かしわぎ学」と関連したLFE活動を行う。 生徒がLFE活動において、地域に関心を持ち、設定した課題と探究活動の支援をする。 	<ul style="list-style-type: none"> LFE活動において、「地域探究」をテーマとした紙面の作成を行い、成果を発表させる。 主体的に探究活動を行う。 	A
	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事等を通して、学校の取組を地域の人に発信し、地域への関わりを深める。 	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭などの学校行事において、地域の人が参加したり、学校活動を紹介したりする機会を設け、学校に対して関心を持ってもらう。 生徒会交歓会、校外育成活動を通して、他校の生徒との交流を図り、連携して地域の問題解決を図る。 	A
	進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> 地域と交流しながら学びを進める中で、地域の課題に積極的に取り組みその解決を目指す意識を高める。 授業公開を実施し、保護者や地域の方々に授業を見てもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域と学ぶ学習活動を、進路学習全体を通じて適切に行う。 授業アンケートを実施し、その結果を踏まえて授業改善に生かす。 	A
	1学年	<ul style="list-style-type: none"> 「かしわぎ学」における、地域との関わりを通して地域を愛する心を醸成する。 アントレプレナーシップの基礎づくりを行う。 関わる力、助け合う力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「柏崎を知る」をもとに年間を通して系統的に地域探究学習を行う。 自ら設定したテーマで、「調べ学習と体験」、「発信や提言」への学び方を学ぶ。 地域に出かけて地域で学ぶ学習を設定する。 	A
	2学年	<ul style="list-style-type: none"> 地域と関わる行事や学習に対して意欲的に取り組み、郷土の理解を深め、生き方と関わる力を付ける。 他と関わる力、助け合う力の育成。 	<ul style="list-style-type: none"> 主に、次の行事や学習に対して意欲的に取り組めるよう、事前指導を行う。「LFE活動」「体育祭」「職場体験学習」「学年PTA主催の福祉体験」「翔洋祭」「修学旅行」 	A
	3学年	<ul style="list-style-type: none"> 学校における学習活動以外の部活動や地域活動(スポーツや文化活動、ボランティア活動、行事に参加し、社会とともにある自覚をもった生徒を育成する。 生徒が充実した学校生活を送ることで、保護者へのPRを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「かしわぎ学」に取り組み、広い見地から意見を収集し分析した上で、自分なりの主張をまとめ、地域に発信する力を育成する。 活動の記録や生徒の感想を掲載した学年だよりを、適宜発行する。 	C
	4学年	<ul style="list-style-type: none"> 「かしわぎ学」の取り組みを通して、地域社会に貢献する。 自分たちの地域と日本や世界の様々な地域と関連づけ、広い視野に立って地域の課題解決に取り組む姿勢を身につける。 地域への愛着や自己肯定感を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の防災に関する学習を行い、自分たちの地域の課題に目を向けさせる。 日本や世界の様々な地域との比較を行い、多様な視点から物事を考えさせる。 地域の課題の解決策を考えることで、社会に貢献できるという意識を醸成する。 	B
	5学年	<ul style="list-style-type: none"> 柏崎他の地域との違いや、つながりを意識した学習を行わせる。 総合探究で充実した「かしわぎ学」の学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の学校活動全体を通して、他の地域とのつながりを考える機会を設ける。 「かしわぎ学」で社会問題の解決プランについて考え、まとめの発表を行う。 	A
	6学年	<ul style="list-style-type: none"> LFE活動を通して、下級生とのつながりを持ち、故郷柏崎のことを調べたり、理解することにより、地域社会や母校へ貢献しようとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 最高学年として、LFE活動を通じて、地域社会や母校へ貢献しようという気持ちを高めさせる。 	A
	国語科	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化の発展に貢献する態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 読書大会や作文コンクールなど、地域主催の作品展やコンクールに積極的に参加(出品)する。 	A
	社会科	<ul style="list-style-type: none"> 作文コンクールなどに積極的に応募する。 「かしわぎ学」を授業や課題などでも積極的に扱い、地域連携・社会貢献および情報発信する能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> 3、4年生は「税に関する作文」・「税に関する高校生の作文」に全員応募する。 3年生は人権に関する作文にできるだけ多くの者に応募させる。 地域のことを調べ、社会貢献のあり方について考えさせる。 	B
	数学科	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会での数学的な事象に興味を持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> 数学と実生活との結びつきを感じることができるような課題を取り扱う。 	B
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 理科を通じて、地域に学校をPRし、地域の特徴を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 科学研究発表会・作品展などに参加をする。 地域の植生や原子力などについての内容を扱う。 	B
	英語科	<ul style="list-style-type: none"> 地域を知り、学び、考えたことを、世界の人々と共有し、課題を解決しようとする力を育成する。 日本語を母語としない人に、自己の生活する地域や日本の文化紹介を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の考えや意見を英語で書いたり話したりできるように授業中の活動を工夫する。 地域や日本文化の紹介を英語でできるように、授業中の活動を工夫する。 	A
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> 長距離走の単元で、地域の人々に頑張っている姿を示せるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 校地周辺にコースを設定し、生徒の走る姿を地域の人々の目に触れさせる。 生徒の頑張っている姿が、地域の人々に元気を与えることにつながることを指導する。 	B	